

自信を持った行動のできる子

石 脇 紀美子

1. 対象児のプロフィール

生徒名 K. N(女) 昭和49年12月5日生(中学部1年) S Q38(S-M社会生活能力調査)

語い年齢 5才6ヶ月(PVT) 市内S小学校特殊学級より本校中学部に 中度精薄児

(1) 一般的特性

- 言語がかなり不明瞭で、たいへんききとりにくい。
- 二音のききとり模倣はできるが、三音、四音となると、途中の音が欠落する。
- 大きな声で注意されたり、少しでも思い通りにならないこと、気に入らないことがあると、所かまわず座り込んで大きな声で泣き出す。
- 自分より低年齢の友達や能力の低い友達の世話を好んでする。
- 身辺自立は、ほぼ確立し、生活能力はあるが、学習能力が乏しく、学習が定着しない。

(2) 家庭環境

- 両親と姉(中3)、本人の4人家族。父親は会社員。母親は10月より近所に勤めに出る。生活状態は普通。出生時より効外の団地に生活する。
- 両親共に本児の教育には熱心であるが、学校行事等にはすべて母親が出席し、父親は不参加。
- 母親が、本児の行動に対して過干渉な態度で接している。

(3) 問題点と研究に取り上げた理由

入学当初、言葉が不明瞭なことを気にしてか何かを尋ねられたり、発表をしたりする場に出会うと一歩後退して尻ごみをしてしまい全くしゃべらないことが多かった。そして、少しでも気に入らないことがあると座り込んで大きな声で泣きわめく光景も度々見られた。また、何をすることも一人であることを嫌い、必ず先生や友達と行動を共にしようとする。

本児のこのような態度は、言語障害によるコンプレックスの積み重ねが原因と考えられる。その原因を取り除き、話をしようという意欲を高めていく指導に取り組むなかで、本児の発音を少しでも矯正し、人前で話をする積極的態度を身につかせようと考えた。

2. 指導の重点と手立て

指導にあたっては、特に次の点に配慮をしながら行っていった。

- 緊張場面をできるだけ少なくし、リラックスした雰囲気の中で指導を行う。
- 本児の話をできるだけ聞きとるようにし、聞きなおしはひかえる。
- 家庭との連携を密に取りあい、学校と家庭が一体になって指導を行う。

○学習の中に本児の好きな歌や踊りを組み込み、楽しい雰囲気の中で発語を促す。

○ほめることを心がけ、本児がしたこと自信を持たせる。

そして、特に次の三場面に指導の柱をおいて取り組むことにした。

場面	手 だ て
おつかいの指導	(1)一人での行動をたいへん嫌がるので、始めは先生と次は友だちと、そして一人でと段階を踏む。 (2)入室と退室のあいさつを重視し、用件はメモを持たせる。 (3)できた時は、十分な賞賛を与え、次への行動につなげる。
劇指導	(1)楽しい歌や踊りを組み入れて、大きな動きをさせる。 (2)台詞が聴き取りにくくても、正しい発音を毎回要求せず、大きい声でのびのびと言わせる。 (3)毎日繰り返し練習を行い、劇の流れに見通しを持たせる。
家庭との連携 (家庭に依頼)	(1)毎日の生活ノートを見ながら、その日の学校・家庭の様子を聞き出すようにする。 (2)代弁はできるだけ控え、本人に話をさせるようにする。 (3)継続的にお手伝いやおつかいをさせる。

3. 指導の実践

四月より、おつかいの指導と劇指導、そして家庭の連携による指導を中心にして、次のような計画のもとに行ってきた。

○おつかいの指導……中学部の先生に手紙を持っていく。→他の学部や事務室へ手紙を持っていく。

○劇の練習……自己紹介、ダンス、臨海学校、学習発表会、全校朝会などの発表→三年生を送る会での劇とおわかれの言葉まで反復練習する。

○家庭との連携……○学校でのようすを家の人に話す。(生活ノートで確認)

○夕食を中心にした調理・配膳・あと始末との取り組み。

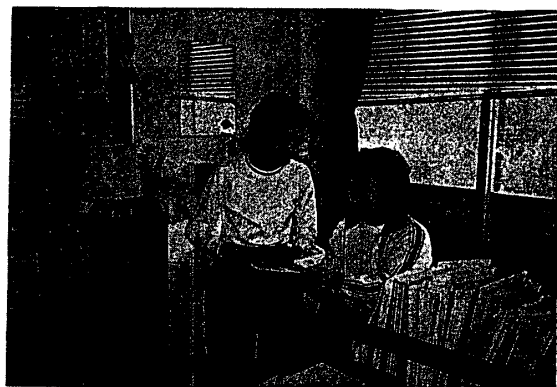
○家の人と一緒にマーケットでの買物。100円程度の1つの買い物。

○同じ団地内での回覧板などの届け物をする。

○日記を書く。

(1) おつかいの指導

四月当初、どんな指示をしても尻ごみして、顔を隠してしまうK子に、まず毎日におたよりと連絡板を配る仕事を与えた。初めは、漢字混じりで記



された氏名の読み取りに自信がなく、一つ一つ「これは？これは？」と連絡板をさし出して尋ねていた。五月になると、一人で配ることができるようになった。そして、6人分のおたよりと連絡板をまちがひなく配ることができた時には十分な賞賛を与えるようにした。その次から他の用件をたのんでも、少しずつできるようになった。

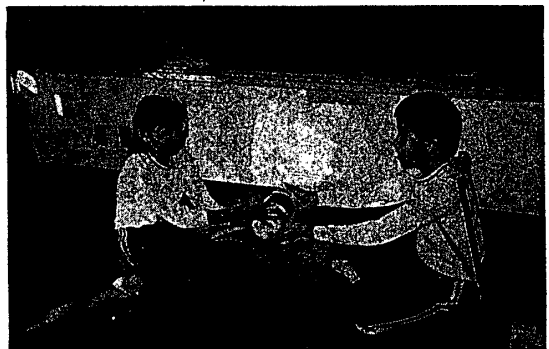
また、五月から他学級へのおつかいをさせてみた。初めのうちは、手紙を持って教室の戸口に立ったままいることもしばしばあったが、徐々にそれもなくなり、一人で他クラスや事務室に行けるようになってきた。そして、元気よく「行って(き)ました。」と報告できるようになってきた。以下は主な記録である。

月日	指 示	本 児 の 様 子	手 だ て
4 / 20	○おたよりと連絡板を配ってください。(教室)	○おたよりは一枚ずつ棚に置くことができた。連絡板は自分のだけは置きあとは一人ずつ尋ねに来て置く。	○6人分の置き場所は覚えているので、名前を読んで手渡す。配り終わったら「ありがとう」と声をかける。
5 / 7	○A組のY先生にこれを持って行ってください。	○一度A組の教室をのぞいたが、教官が2人いるためわからない様子で「どれ?」と言って帰ってきた。	○事前に連絡する。S先生に席をはずしてもらおう。
5 / 30	○A組のS先生にこれを持って行ってください。	○手紙を持ったまま入口の前に立っている。 ○指を1本出してたずねる。(1人で?) 「いやか」ときくと「(ウン)うなずく」	○M子と一緒に入室させる。 ○無理せず、M子と一緒にに行かせる。
7 / 10	○A組のS先生にこれを持って行ってください。	○「ハイ」と言って調子よく出ていく。 ○「行って(き)ました。」と報告する。	○大きさに賞賛を与える。 ○あとでY先生に様子をたずねると「あいさつは聞きとりにくいですが、正確に手紙を渡すことができた」ということだった。
10 / 2	○保健室にこのカードを持って行ってください。	○「体重測定をする部屋」と言うと、たいへん不安そうな顔にかわる。教室を出ていったが、しばらくの間保健室の入口の前に立ったままだった。 ○T先生に「もって(き)ま(し)た」と言って渡す。	○入室の様子が見られないので、つきそって入る。指示されたことがよくわかっていないようなのでもう一度指示を与えた。
10 / 27	○事務室にこのお金を持って行ってください。	○「ハイ」と言って元気よく出ていく。 ○なかなか入室することができずとうとう中の先生から声をかけられて入る。 ○教室に入ると「行って(き)ました。」と報告をする。	○前もって事務室に用件を伝えておく。 ○「何を持ってきたの」——「(手に持っているお金を見せる)」 「誰からですか」——「いしわきせんせいおねがいします。」 ○大きさに賞賛を与える。

(2) 劇 指 導

「人前で声が出せるように」という気持ちで劇指導を行った。7月に行われる臨海学校のクラス発表と、全校集会でのクラス発表「おむすびころりん」の劇に取り組んだ。K子はその中でおばあさんとネズミの役を演じることにした。

初めは、緊張と恥ずかしさで、身振りも台詞もほとんど出なかった。が、繰り返しの練習と音楽



の利用でだんだんと身振りで表現できるようになった。その上自信もでき、台詞が言えだした。

11月の発表会では、友だちと一緒にかなり早くから大きな声で台詞を言ったり、恥ずかしがらずに大きな身振りをすることができた。発表会当日も、体育館で見ている人にははっきりと聞こえるように言えた。

(3) 家庭との連携

入学時の母親の態度から、K子の行動に対して干渉しすぎることが推察された。そして、それがK子の自信のない行動を生ずる原因にもなっているのではないかと考えた。そこで、家庭でもK子が自主的な生活が送れるように学校での取り組みを話すとともに、家庭での課題を決めて学校と歩調をあわせた指導をお願いした。特に毎日の生活ノートには、おつかいと劇の指導の様子を中心にしながら一日の生活の様子を詳しく記録し、それをもとにK子には学校での様子を家で話させるようにした。家庭での様子は、生活ノートに記録してもらい、学校での指導の手がかりにするよう心がけた。

また、皿運びのお手伝い、近所へのおつかいなども少しずつではあるが積極的にできるようになってきたようである。さらに、このようなK子の成長は最近の日記にも見られるようになった。

以下は、生活ノートの一部とK子の日記である。

日	内容
10月1日	朝の準備、おつかい、学校での様子
10月2日	おつかい、おつかい、おつかい
10月3日	おつかい、おつかい、おつかい
10月4日	おつかい、おつかい、おつかい
10月5日	おつかい、おつかい、おつかい
10月6日	おつかい、おつかい、おつかい
10月7日	おつかい、おつかい、おつかい
10月8日	おつかい、おつかい、おつかい
10月9日	おつかい、おつかい、おつかい
10月10日	おつかい、おつかい、おつかい
10月11日	おつかい、おつかい、おつかい
10月12日	おつかい、おつかい、おつかい
10月13日	おつかい、おつかい、おつかい
10月14日	おつかい、おつかい、おつかい
10月15日	おつかい、おつかい、おつかい
10月16日	おつかい、おつかい、おつかい
10月17日	おつかい、おつかい、おつかい
10月18日	おつかい、おつかい、おつかい
10月19日	おつかい、おつかい、おつかい
10月20日	おつかい、おつかい、おつかい
10月21日	おつかい、おつかい、おつかい
10月22日	おつかい、おつかい、おつかい
10月23日	おつかい、おつかい、おつかい
10月24日	おつかい、おつかい、おつかい
10月25日	おつかい、おつかい、おつかい
10月26日	おつかい、おつかい、おつかい
10月27日	おつかい、おつかい、おつかい
10月28日	おつかい、おつかい、おつかい
10月29日	おつかい、おつかい、おつかい
10月30日	おつかい、おつかい、おつかい
10月31日	おつかい、おつかい、おつかい

日	内容
10月1日	朝の準備、おつかい、学校での様子
10月2日	おつかい、おつかい、おつかい
10月3日	おつかい、おつかい、おつかい
10月4日	おつかい、おつかい、おつかい
10月5日	おつかい、おつかい、おつかい
10月6日	おつかい、おつかい、おつかい
10月7日	おつかい、おつかい、おつかい
10月8日	おつかい、おつかい、おつかい
10月9日	おつかい、おつかい、おつかい
10月10日	おつかい、おつかい、おつかい
10月11日	おつかい、おつかい、おつかい
10月12日	おつかい、おつかい、おつかい
10月13日	おつかい、おつかい、おつかい
10月14日	おつかい、おつかい、おつかい
10月15日	おつかい、おつかい、おつかい
10月16日	おつかい、おつかい、おつかい
10月17日	おつかい、おつかい、おつかい
10月18日	おつかい、おつかい、おつかい
10月19日	おつかい、おつかい、おつかい
10月20日	おつかい、おつかい、おつかい
10月21日	おつかい、おつかい、おつかい
10月22日	おつかい、おつかい、おつかい
10月23日	おつかい、おつかい、おつかい
10月24日	おつかい、おつかい、おつかい
10月25日	おつかい、おつかい、おつかい
10月26日	おつかい、おつかい、おつかい
10月27日	おつかい、おつかい、おつかい
10月28日	おつかい、おつかい、おつかい
10月29日	おつかい、おつかい、おつかい
10月30日	おつかい、おつかい、おつかい
10月31日	おつかい、おつかい、おつかい

日	内容
10月1日	朝の準備、おつかい、学校での様子
10月2日	おつかい、おつかい、おつかい
10月3日	おつかい、おつかい、おつかい
10月4日	おつかい、おつかい、おつかい
10月5日	おつかい、おつかい、おつかい
10月6日	おつかい、おつかい、おつかい
10月7日	おつかい、おつかい、おつかい
10月8日	おつかい、おつかい、おつかい
10月9日	おつかい、おつかい、おつかい
10月10日	おつかい、おつかい、おつかい
10月11日	おつかい、おつかい、おつかい
10月12日	おつかい、おつかい、おつかい
10月13日	おつかい、おつかい、おつかい
10月14日	おつかい、おつかい、おつかい
10月15日	おつかい、おつかい、おつかい
10月16日	おつかい、おつかい、おつかい
10月17日	おつかい、おつかい、おつかい
10月18日	おつかい、おつかい、おつかい
10月19日	おつかい、おつかい、おつかい
10月20日	おつかい、おつかい、おつかい
10月21日	おつかい、おつかい、おつかい
10月22日	おつかい、おつかい、おつかい
10月23日	おつかい、おつかい、おつかい
10月24日	おつかい、おつかい、おつかい
10月25日	おつかい、おつかい、おつかい
10月26日	おつかい、おつかい、おつかい
10月27日	おつかい、おつかい、おつかい
10月28日	おつかい、おつかい、おつかい
10月29日	おつかい、おつかい、おつかい
10月30日	おつかい、おつかい、おつかい
10月31日	おつかい、おつかい、おつかい

10月下旬の日記

(文意が通じない点があるが、すべて一人で書きだした。)

4. まとめと反省

入学当初、いつもおどおどし、人に会えば後方に隠れようとしていたK子であったが、現在では明るさがあらわれ、笑顔で人に接し、何事にも「私も、私も」と積極的な態度を見せるようになってきた。また所かまわず大声で泣く姿も減少し、いやな事や友達への文句があれば担任まで告げてくるようになった。が、言語が不明瞭で話しが正確に伝わらないというコンプレックスはぬぐいきれず、大勢の前に出たり、初めての人と話を交わすことにはまだまだ後ずさりをしてしまう。

また、家庭と生活ノートや家庭訪問等で連絡を密に取ることは、K子を伸ばしていく上にも、母親の態度を変えていくためにも大変効果的であったように思う。そのことは、おつかいや買物の態度からも窺える。言葉は思うように伝わらなくても、明るい態度で行動できるようになったK子ではあるが、呼吸や発声の訓練、構音器官の訓練など養育的な訓練も重視していく考えである。その上で気持ちをリラックスさせ、話をしようとする雰囲気を作ってゆけば、K子は更に伸びると思う。